

学生による授業評価と授業改善への試み

—「教育学」について—

大 桃 伸 一

I 序 論

戦後まもない頃、国語科学習指導要領の作成において興味深い議論があった。それは、「国語科の評価」と「国語科における評価」のどちらを選んだらよいかの議論である。「国語科における評価」とは、いうまでもなく「生徒の学力の評価、進歩の評価」を意味する。こちらを選択すべきであるという意見もあったが、委員会は「国語科の評価」とすることにした。それは次の理由からである。

「国語科の評価にしたのは、評価は生徒の学習の進歩を評価するだけでなく、そのことを通して、教え方のよしあし、教育計画のよしあしも評価すべきで、『国語科の評価』ということが、国語科の教育課程の評価と取られてもいいし、そういうことがむしろ必要ではないのかという意見が強くなったからであった(1)」

ここには、「国語科の評価」とは「国語科の教育活動を評価する行為」であって、そのために必要とされるデータを「国語科における評価」が提供するという基本的な認識がある。

わが国において教育評価という概念が一般的に使用されるようになったのは第二次世界大戦後である。それはEvaluationの訳語として導入された。この概念の提唱者であるとされるタイラー (R. W. Tyler, 1902-1994) は、「テスト」をして個人差を通告(ネブミ)するソーナダイク (E. L. Thorndike, 1874-1949) らの教育測定運動を厳しく批判した。そして、教育評価 (Evaluation) の目的は、人間を「ネブミ」することではなく、評定行為等によって得たデータをもとに教育活動を絶えず点検し改善することにあるとしている。タイラーによれば、どんなに情熱的でロマンあふれる教育活動であっても、そこにクールでリアルな目が同時になければ、それは時として教師の独善的なものになる危険をもつのである(2)。

さきの国語科学習指導要領作成時の議論は、このようなタイラーの考え方が反映されている。しかし、今日、わが国の学校教育において子どもたちが評価という言葉からイメージするものは、タイラーの提唱した教育評価 (Evaluation) の概念とはかなり異なったものである。それはテストや通知表と結びついた「ネブミ行為」(判定行為)として受け取られている場合が多い。

戦後の教育改革のなかで導入されたタイラーの教育評価 (Evaluation) の概念が、今日のわが国において単なる「ネブミ行為」と受け取られかねないような状況を生み出しているのには原因がある。まず、さきの国語科学習指導要領作成時の議論において明らかに区別されるべき「国語科の評価」と「国語科における評価」に同じ「評価」という言葉が使われていることである。「国語科における評価」は「評定」というべき行為であるのに、「評価」と「評定」が区別されることなく使用されてきたことに混乱の一因がある。

このような用語の混同は、高度経済成長期以降のわが国の教育政策のなかで「評価」を単なる「ネブミ行為」にしていったと考えられる。高度経済成長期に能力主義の教育政策がとられ、受験競争が激化していく。入学

試験において学力検査は選抜のための検査として位置づけられる。授業は試験でよい成績をあげるための知識の教え込みが中心となり、その結果を「学力」として測定し子どもを序列化することに主要な関心がおかれるようになっていった。そして、評価は「ネブミ行為」として、選別や序列化の手段として機能するようになっていったのである。

大学や短期大学において評価の問題がクローズアップされるようになるのは、1991年（平成3年）の大学設置基準、短期大学設置基準の改訂によってである。基準の大綱化によって、大学改革・短大改革が急激におこり、教育改革の目玉の一つとして学生による授業評価がおこなわれていった。大学審議会答申によれば、1998年度に学生による授業評価を実施したのは344大学（約55%）・722学部（約47%）である⁽³⁾。

しかし、この学生による授業評価については本音のところでは反対の教員も多い。それは、学問的に学生と教員には雲泥の差があり、自分よりもはるかにレベルの低い学生が自分の授業を正しく評価できるかという疑問や、学生に迎合する教員が出てくるのではないかという危惧による。しかし、その最大の反対理由は、教員自身が「ネブミ」され、学生による授業評価の結果が教員の人事や処遇にかかわってくるのではないかということであろう。

教育実践は、目標の設定→内容の選択→指導活動→評価→調整と新たな目標の設定・・・という一連のサイクルのなかで効果的に展開されていくものである。したがって、評価とは、たんに「学生の学力の評価」のことではなく、教員自身の実践の自己点検としての意味をもつ。評価活動を通して、自己の教育的働きかけの成果を点検し、それまでの自己の働きかけを反省し、軌道修正し、よりよい実践をつくりだしていくことが教育活動においては不可欠のことである。また、教育実践とは、教育者と被教育者とが相互に働きかけ合いながら共に成長していく活動である。被教育者である学生の意見を取り入れない授業は、それがどんなに周到に計画され、熱心におこなわれても、タイラーのいうように、独善的になる危険性をもつのである。

学生による授業評価が、「ネブミ行為」におわることなく、教育評価（Evaluation）として教育活動の改善につながっていくことが必要であろう。

本稿は、県立新潟女子短期大学共同研究事業の一環としておこなった教養科目「教育学」についての学生による授業評価の報告である。

Ⅱ 「教育学」についての学生の授業評価

1 方法

教育学は、教養科目として前期の月曜日の2限と3限におこなわれている授業である。2限の授業は、生活科学科生活科学専攻、生活科学科食物栄養専攻、生活科学科生活福祉専攻、英文学科、国際教養学科の1年生が対象の科目であり、選択科目となっている。これに対して3限の授業は、筆者が所属する幼児教育学科の1年生が対象の科目であり、選択科目となっている。講義概要は2限、3限とも同じである。履修者は2限が107名、3限が40名、あわせて147名である。

調査は、6月25日（月）、10回目の授業中におこなった。それは、調査結果を形成的評価として利用するためでもある。授業の終結時ではなく途中で調査して、それをその後の授業改善の資料としていくというのが形成的評価の基本概念であるが、都合により少し調査が遅くなってしまった。調査項目は、論文末に参考資料として掲げたとおりである。回答者は、2限が93名、3限が40名、全体で133名であった。履修者に対する回

答者の割合は、2限が86.9%、3限が100%、全体で90.5%であった。

2 結果と考察

(1) 授業選択の理由

問1でまず、「あなたが教育学の授業を選択した理由を1つだけ選んでください」という質問をおこなった。これに対する回答は、図1、表1のとおりである。「内容がおもしろそうだから」が2限で72%、3限で52.5%、全体で66.2%と抜きんでいる。次が「先輩に薦められたから」で2限が10.8%、3限が20%、全体で13.5%となっている。「就職に有利だから」は2限が1.1%であるのに対して、3限では15%となっているのは、3限が幼児教育学科の学生で幼稚園教諭をめざしているからであろう。この教育学はまた、中学校教員免許状修得のための教職選択科目となっている。「その他」とした学生の多くは「教職科目であるから」という理由をあげていた。「その他」のなかにはほかに、「将来絶対やくだつと思ったから」という積極的な理由と同時に、「友人に誘われたから」「なんとなく」といった消極的な理由もあげられていた。授業選択の理由として、「単位が取りやすそうだから」をあげていた学生はいなかった。

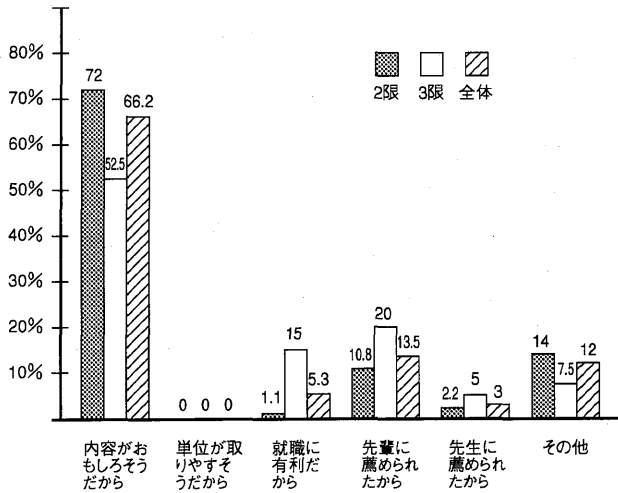


図1 授業選択の理由

表1 授業選択の理由

	内容がおもしろそうだから	単位が取りやすそうだから	就職に有利だから	先輩に薦められたから	先生に薦められたから	その他
2限	67名	0名	1名	10名	2名	13名
3限	21名	0名	6名	8名	2名	3名
全体	88名	0名	7名	18名	4名	16名

(2) 教員の熱意・意欲

問2では、「授業に対する教員の熱意・意欲を感じましたか」と尋ねており、これに対する回答は表2のとおりである。「十分感じた」が2限で76.3%、3限で85%、全体で78.9%であった。これに「ある程度感じた」を加えると2限で96.7%、3限で97.5%、全体で96.9%となる。自由記述欄に「先生の熱弁ぶりにびっくりして教育学にはいりこんだ!」というものもあった。

表2 教員の熱意・意欲

	十分感じた	ある程度感じた	どちらともいえない	あまり感じなかった	全く感じなかった
2限	76.3%	20.4%	3.2%	0%	0%
3限	85.0%	12.5%	2.5%	0%	0%
全体	78.9%	18.0%	3.0%	0%	0%

(3) 授業への教員の準備

問3では、「授業に対する教員の準備（下調べ）はどうでしたか」と尋ねた。これに対する回答は表3のとおりである。「十分だった」が2限で82.8%、3限で92.5%、全体で85.7%であった。これに「ある程度十分だった」を加えると2限で95.7%、3限で95%、全体で95.5%となる。

表3 授業への教員の準備

	十分 だった	ある程度 十分だった	どちらとも いえない	あまり十分 でなかった	全く十分 でなかった
2限	82.8%	12.9%	4.3%	0%	0%
3限	92.5%	2.5%	5.0%	0%	0%
全体	85.7%	9.8%	4.5%	0%	0%

(4) 授業は興味を引くものであったか

問4では、「授業内容はあなたの興味を引くものでしたか」と尋ねており、これに対する回答は表4のとおりである。「興味を引くものであった」が2限で49.5%、3限で55%、全体で51.1%であった。これに「ある程度興味を引くものであった」を加えると2限で94.7%、3限で97.5%、全体で95.5%となる。授業に対する興味度が2限よりも3限の方が高いのは、3限が幼児教育学科の学生であるということによると考えられる。ただ、3限で、「あまり興味を引くものでなかった」と答えている学生が1名(2.5%)いた。この学生は「就職に有利だから」という理由で授業を選択し、「100%出席・遅刻なし」と回答している。気になるところである。自由記述欄に、この問いと関連することを書いてくれた学生は多かったが、そのうちの一つを紹介したい。

「授業は興味深く、とても勉強になりました。今まで自分の受けてきた教育について振り返ったり、またこれからの将来を考えるのにとってもよい機会になりました。」

表4 授業は興味を引くものであったか

	興味を引く ものであった	ある程度興味を 引くものであった	どちらとも いえない	あまり興味を引く ものでなかった	全く興味を引く ものでなかった
2限	49.5%	45.2%	5.4%	0%	0%
3限	55.0%	42.5%	0%	2.5%	0%
全体	51.1%	44.4%	3.8%	0.8%	0%

(5) 授業はわかりやすかったか

問5では、「授業内容はわかりやすいものでしたか」と尋ねた。これに対する回答は表5のとおりである。「わかりやすかった」が2限で58.1%、3限で57.5%、全体で57.9%であった。これに「どちらかといえばわかりやすかった」を加えると2限で95.7%、3限で97.5%、全体で96.2%となる。授業内容のわかりやすさについて2限と3限でほとんど違いがみられないのは、調査対象が1年前期の学生であるからと考えられる。この問いと関連することを自由記述欄に書いてくれた学生も多かったが、その一つを載せておきたい。

表5 授業はわかりやすかったか

	わかりやす かった	どちらかといえ ばわかりやす かった	どちらとも いえない	どちらかといえ ばわかりにく かった	わかりに くかった
2限	58.1%	37.6%	4.3%	0%	0%
3限	57.5%	40.0%	2.5%	0%	0%
全体	57.9%	38.3%	3.8%	0%	0%

「教育というものを学ぶ第一段階としてこの教育学の授業はととてもよかったです。最初から変に難しいことを与えられるのではなく、自分の身近なわかりやすいことを話してもらえて興味をもって聞けました。」

(6) 教材は適切であったか

問6では、「プリント・視聴覚教材などは適切でしたか」と尋ねており、これに対する回答は表6のとおりである。全体で見ると「適切だった」が71.4%で、これに「どちらかといえば適切だった」を加えると92.5%となる。教育学の授業では天野正輝編著『新しい教育の探究』をテキストとして使用しているが、他に毎時間授業内容に応じた資料をプリントして配布している。また、この調査が行われた10回目の授業までに、3回ほど視聴覚教材を活用した授業をおこなっている。これらのプリント・視聴覚教材が概ね適切だったことが知れる。特に、ビデオ教材については、「ビデオよかったです。もっと見たいです」といった要望が多かった。自由記述欄に書かれていた学生の感想の一つを紹介したい。

「最初の授業前、難しそうだなと思ってたけど、いざ授業を受けてみるととてもわかりやすく、ビデオや例がとて私の中で授業をよりわかりやすくして良いと思います。いつも授業を楽しみにしています。」

表6 教材は適切であったか

	適切だった	どちらかといえば適切だった	どちらともいえない	どちらかといえば適切でなかった	適切でなかった
2限	72.0%	19.4%	6.5%	2.2%	0%
3限	70.0%	25.0%	5.0%	0%	0%
全体	71.4%	21.1%	6.0%	1.5%	0%

(7) 板書は適切であったか

問7では、「板書は適切で読み取りやすかったですか」と尋ねた。これに対する回答は表7のとおりである。全体で見ると「読み取りやすかった」が28.6%で、これに「どちらかといえば読み取りやすかった」を加えても60.2%にすぎない。これに対して、「どちらかといえば読み取りにくかった」と「読み取りにくかった」を加えると、全体で18.1%になる。板書については日頃から注意してきたつもりであるが、2割近くの学生が不満を持っている。自由記述欄にも不満が学生から述べられている。そのいくつかをあげると次のとおりである。

「赤いチョークは見えづらいです。あともっとこく字を書いてほしいです。」

「板書が少しわかりにくいです。どこが要点かわかりません。」

「板書が家にかえって見たとき単語のみしか書かれてないことが多くて理解しづらかった。」

「たまに黒板をノートに写しきらないうちに消されたりしていたので、ちょっとゆっくりにしてほしい」

表7 板書は読み取りやすかったですか

	読み取りやすかった	どちらかといえば読み取りやすかった	どちらともいえない	どちらかといえば読み取りにくかった	読み取りにくかった
2限	30.1%	29.0%	21.5%	15.1%	4.3%
3限	25.0%	37.5%	22.5%	12.5%	2.5%
全体	28.6%	31.6%	21.8%	14.3%	3.8%

ときが少しあった。」

「ある程度、みんなが板書をし終わってから先生の説明を始めてほしい。」

こうした学生の指摘をきちんと受けとめて、改善をはかっていかなければならない。

(8) 話し方は聞き取りやすかったか

問8では、「教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかったですか」と尋ねており、これに対する回答は、表8のとおりである。全体で見ると「聞き取りやすかった」が73.7%で、これに「どちらかといえば聞き取りやすかった」を加えると95.5%になる。自分の声や話し方にはまったく自信がなく、できるだけゆっくりとわかりやすく話すように努めてきただけであるが、意外の結果だった。ただ、自由記述欄には、「あきない授業だったので聞きやすかった」とある。話し方は、話す内容と結び付けて考えられているようにも思われる。今回の調査では、「どちらかといえば聞き取りにくかった」「聞き取りにくかった」と答えた学生はゼロであった。しかし、自由記述欄に「言葉の語尾が聞こえない時があります」という指摘があった。注意したい。

表8 話し方は聞き取りやすかったか

	聞き取りやすかった	どちらかといえば聞き取りやすかった	どちらともいえない	どちらかといえば聞き取りにくかった	聞き取りにくかった
2限	71.0%	23.7%	5.4%	0%	0%
3限	80.0%	17.5%	2.5%	0%	0%
全体	73.7%	21.8%	4.5%	0%	0%

(9) 知識や認識を向上させたか

問9では、「この授業は、あなたの教育に対する知識や認識を向上させてくれましたか」と尋ねており、これに対する回答は図9のとおりである。「向上させた」が2限で52.7%、3限で45%、全体で50.4%である。これに「ある程度向上させた」を加えると2限で93.6%、3限で87.5%、全体で91.8%となる。

表9は、「向上させた」を5、「ある程度向上させた」を4、「どちらともいえない」を3、「あまり向上させなかった」を2、「向上させなかった」を1、として集計した平均値である。幼児教育学科の学生が対象の3限の方が2限よりも低いのは、学科の専門科目等によって教育について学んでいるためであろうか。この問い

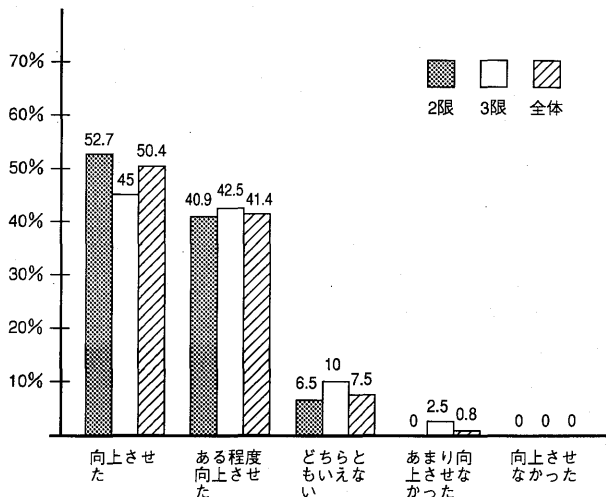


表9 知識・認識の向上

	平均値
2限	4.46
3限	4.30
全体	4.41

図9 知識や認識を向上させたか

に関連することが自由記述欄にもいくつか書かれているが、その1つを紹介する。

「今まで自分が親にどう接されてきたかとか考えながら聞くと、どうして親が私にああいう接し方をしたとか何となくではあるが理解できた。それに、いずれ自分が体験するだろう子育てについても取り上げられていて、今までもっていなかった知識を身につけられて良かったです。」

(10) 授業全体に対する満足度

問10では、「この授業全体に対するあなたの満足度はどうでしたか」と尋ねており、これに対する回答は、図10のとおりである。「十分満足できた」が2限で49.5%、3限で42.5%、全体で47.5%である。これに「ある程度満足できた」を加えると2限で92.5%、3限で97.5%、全体で94%となる。「あまり満足できなかった」と答えた学生は全体で1名、「全く満足できなかった」と回答した学生はゼロであった。

また、「十分満足できた」を5、「ある程度満足できた」を4、「どちらともいえない」を3、「あまり満足できなかった」を2、「全く満足できなかった」を1として集計した満足度の平均値を表10に示す。2限も3限も満足度の平均値が4.40と同じであった。調査対象が違うので単純な比較はできないが、この調査の8ヶ月前の平成12年10月に県立新潟女子短期大学短大教育研究会がおこなった、本学の全教養科目に対する学生の満足度の平均値は3.38であった⁽⁴⁾。

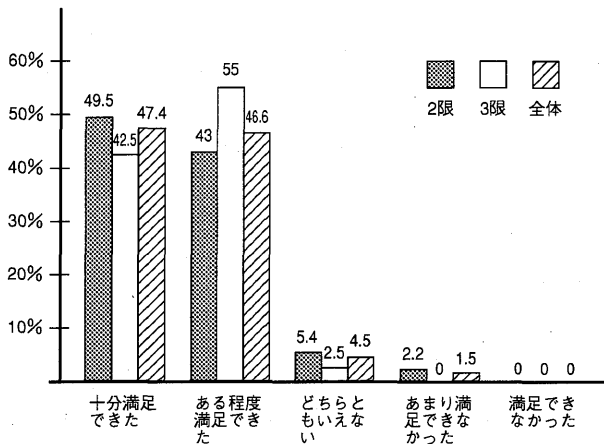


表10 授業全体の満足度

	平均値
2限	4.40
3限	4.40
全体	4.40

図10 授業全体の満足度

(11) 友だちに薦めたいか

問11では、「この授業を友だちにすすめたいと思いますか」と尋ねた。これに対する回答は、表11のとおりである。2限と3限との差は殆どみられなかった。全体で見ると、「薦めたいと思う」が56.4%、これに「どちらかといえば薦めたい」を加えると84.2%となる。授業全体の満足度よりは低いですが、8割以上の学生が教育学の授業を友だちに薦めたいと答えてくれている。

表11 友だちに薦めたいか

	薦めたい	どちらかといえば薦めたい	どちらともいえない	どちらかといえば薦めたくない	薦めたくない
2限	55.9%	28.0%	16.1%	0%	0%
3限	57.5%	27.5%	15.0%	0%	0%
全体	56.4%	27.8%	15.8%	0%	0%

(12) 学生の出席状況

問12では、授業への出席状況について尋ねた（表12）。「100%出席」と答えた学生が、2限で80.6%、3限で82.5%、全体で81.2%であった。これに「90%以上出席」を加えると、2限で95.7%、3限で95%、全体で95.5%となる。「60%以下出席」が全体で2名（1.5%）いた。2名とも、授業選択の理由が「内容がおもしろいから」をあげており、授業全体の満足度について「ある程度満足できた」と答えている。2名のうち1名は自分の受講態度について「真面目でなかった」と答え、自由記述欄に「教育学には元から興味があったけど、事情があってほとんど授業に出れませんでした。機会があったらまた勉強したいです」と書いている。

表12 学生の出席状況

	100%出席	90%程出席	80%程出席	70%程出席	60%以下出席
2限	80.6%	15.1%	2.2%	0%	2.2%
3限	82.5%	12.5%	2.5%	2.5%	0%
全体	81.2%	14.3%	2.3%	0.8%	1.5%

(13) 学生の遅刻状況

問13では、授業への遅刻状況について尋ねた（表13）。「遅刻なし」が2限で93.5%、3限で100%、全体で95.5%であった。授業が2限、3限ということもあり、遅刻者はほとんどなかった。

教育学の授業では毎回出席をとっており、出席（遅刻）簿と調査結果とを照合してみたが、ほとんど誤差はなかった。欠席・遅刻をした学生は自分の欠席・遅刻の回数をよくおぼえていることがわかると同時に、学生はこの調査に真面目に答えてくれていることが知れた。

表13 学生の遅刻状況

	遅刻なし	10%程遅刻	20%程遅刻	30%程遅刻	40%以上遅刻
2限	93.5%	4.3%	1.1%	1.1%	0%
3限	100%	0%	0%	0%	0%
全体	95.5%	3.0%	0.8%	0.8%	0%

(14) 自分の受講態度

問14では、「あなたのこの授業に対する受講態度はどうでしたか」と尋ねており、これに対する回答は、図14のとおりである。「真面目に受講した」が2限で34.4%、3限で42.5%、全体で36.8%である。これに「ある程度真面目に受講した」を加えると2限で89.2%、3限で87.5%、全体で88.7%になる。これに対して、「あまり真面目でなかった」は全体で3名（2.3%）、「真面目でなかった」が1名（0.8%）いた。「あまり真面目でなかった」「真面目でなかった」と回答した4名の学生についてみると、2名が「60%以下出席」、他の2名も「90%程出席」と「70%程出席」である。

表14は、「真面目に受講した」を5、「ある程度真面目に受講した」を4、「どちらともいえない」を3、「あまり真面目でなかった」を2、「真面目でなかった」を1、として集計した平均値である。

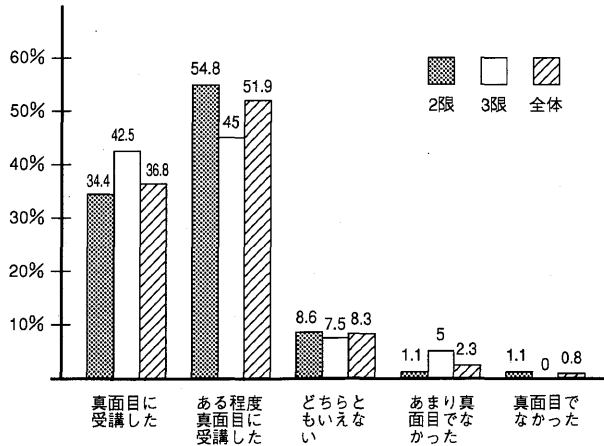


表14 自分の受講態度

	平均値
2限	4.20
3限	4.25
全体	4.22

図14 自分の受講態度

(15) 他の受講生の態度

問15では、「あなたはこの授業に対する他の受講者の態度についてどう思いましたか」と尋ねた。これに対する回答は、図15のとおりである。「真面目だった」が2限で11.8%、3限で37.5%、全体で19.5%である。これに「ある程度真面目だった」を加えると、2限で55.9%、3限で85%、全体で64.6%となる。「あまり真面目でなかった」は、2限で9名(9.7%)いた。

表15は、「真面目だった」を5、「ある程度真面目だった」を4、「どちらともいえない」を3、「あまり真面目でなかった」を2、「真面目でなかった」を1、として集計した平均値である。表14と表15を比較してみると、全体として、自分の受講態度については甘く、他人の受講態度については厳しくみている学生の姿が読み取れる。ただし、2限が自分よりも他人の受講態度をかなり厳しくみているのに対して、3限ではあまり差がみられない。これは、2限はいろんな学科の学生が受講しているのに対し、3限は1つの学科の学生で友だち意識が強いからではないかと考えられる。

自由記述欄に「うるさい人がいて集中できない時があった」と書いている学生がいた。これは2限の学生である。3限の授業ではいわゆる「私語」は全くといっていいほどないが、2限の授業ではたまにみられる。これは、2限の授業はいろんな学科の学生が受講していること、2限に比べて教室が大きいこと(240人定員)、などの理由が考えられる。しかし、注意の仕方なども工夫して、授業の改善に努めていきたい。

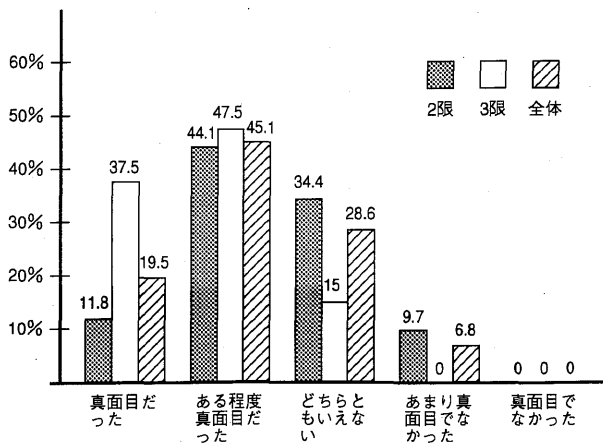


表15 他の受講生の態度

	平均値
2限	3.58
3限	4.23
全体	3.77

図15 他の受講生の受講態度

(16) 施設・設備

問16では、「校舎や教室の施設・設備はどうでしたか」と尋ねた。これに対する回答は、図16のとおりである。「良かった」と答えた学生はいなかった。「どちらかといえば良かった」も全体で17.3%にすぎない。これに対して、「どちらかといえば悪かった」と「悪かった」を加えると全体で38.3%になる。4割近い学生が施設・設備に不満をもっているのである。

表16は、「良かった」を5、「どちらかといえば良かった」を4、「どちらともいえない」を3、「どちらかといえば悪かった」を2、「悪かった」を1、として集計した平均値である。全体で2.70と低い。本学は、築8年の新校舎と築40年近くなる旧校舎からなっている。教育学の授業は2限も3限も旧校舎でおこなっている。施設・設備に対する学生の不満もこのことからきているかも知れない。3限よりも2限の方が満足度が低いのは、3限が54名定員の教室なのに対して、2限は240名定員の教室であることにもよると考えられる。

自由記述欄にも、施設・設備に関する学生の不満が多く書かれていた。そのいくつかを載せておきたい。

「教室の設備がもっと良くなって欲しいと思います。」

「クーラーとつけてほしい。授業には満足だが、設備がわるいです。」

「やっぱりクーラー暖房(ママ)をいれてほしいです。けちすぎます。先生の研究室は一台一台クーラーが入ってテレビまでついているのに、どうして私たちだけが電気代を節約しなければいけないのですか……。」

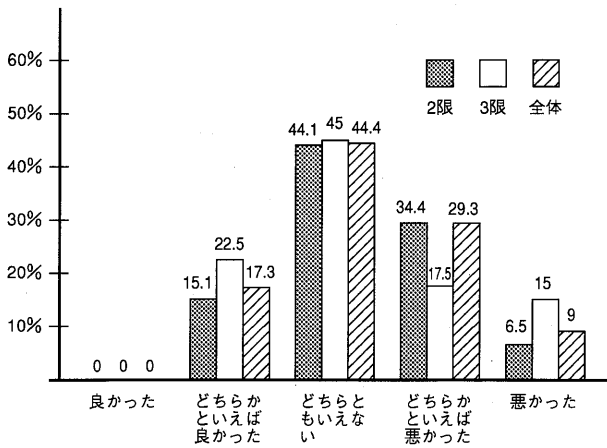


表16 施設設備

	平均値
2限	2.68
3限	2.75
全体	2.70

図16 施設・設備

(17) 特別受講生

本学には、「県民の学習意欲の高まりに応えるとともに、地域に開かれた大学となることをめざして、県民の皆さんに授業科目の一部を開放して、学生と一緒に学んでいただく」特別受講生制度がある。教育学ではこの制度の一環として3限の授業を新潟県民に開放している。平成13年度は、10名の県民が特別受講生として、学生と一緒に学んだ。10名の内訳は、20代が1名、30代が3名、40代が4名、50代が1名、そして80代が1名である(5)。

表17 特別受講生と学んでどうだったか

	良かった	どちらかとい えば良かった	どちらとも いえない	どちらかとい えば悪かった	悪かった
3限	72.5%	20.0%	7.5%	0%	0%

そこで、この調査では3限の学生だけに、問17として、「特別受講生と一緒に学んでどうでしたか」と尋ねた。これに対する回答は、表17のとおりである。「良かった」が72.5%、これに「どちらかといえば良かった」を加えると92.5%になる。ほとんどの学生が社会人と一緒に学ぶことを肯定的にとらえている。

自由記述欄に「特別受講生との交流があったらいいと思います（話を聞いたりなど）」という要望があったので、調査後、特別受講生の方に自己紹介をかねてスピーチをしてもらった。それに対する学生の感想の一つを紹介したい。

「いろんな社会人の人がさまざまな理由で、私たちと一緒に学んでいることがわかりました。特に、85歳の青野さんは豊浦町から往復3時間かけて通ってきます。無遅刻・無欠席、いつも一番前の席で熱心に聞いています。『県短で学んだ成果を生かして活力ある地域づくりに貢献したい』という話を聞いて心をうたれました。わたしも幼稚園の先生めざしてがんばりたいと思います。」

(18) 自由記述

最後の問いでは、「この授業に対して意見や感想・要望（こんなテーマを授業で取り上げてほしいなど）があれば、自由に書いてください」としたところ、2限では67名（72%）、3限では26名（65%）、全体で93名（70%）の学生が授業に対する意見や感想を書いてくれた。特別な指示は何もしなかったのに、全体の7割の学生が自由記述欄に書いてくれたことを重く受けとめたい。

各問いごとに、関連するもののいくつかについて紹介してきた。ここではまず、それ以外の10名の学生からの授業についての感想について載せておきたい。

「私は教育について、とても興味があったので受けようと思ったのですが、受けてみたら思った以上に、私自身も励まされることもあるほど、感動し、人に対しても少し優しく接することができるようになりました。私は1人でも小さい子どもをいい方向に歩いていかせてあげたいと思いました。街で偶然出会った子どもにも私の優しい言葉で少しでも元気になってもらえるよう心がけたいです。」

「いろんな視点から“教育”を考える授業に、毎時間ホントに感動しています。どのテーマも私にとって非常に興味深いものばかりなので、楽しく受講しています。これからもがんばって下さい。」

「とても分かりやすく、将来、いろいろな面で役に立つと思います。私は、小さい子どもがにがてで、なるべく接するのをさけるようにしていましたが、この講義をうけて、これからは、将来のために、小さな子どもとも、接してみようと思いました。」

「話がおもしろくて引き込まれました。私も将来子供を生み、育てることになると思うから、とてもためになった。完璧な人なんていないのだから、親になったとしても人らしい人として子育てをしたい。」

「話の内容がおもしろく、聞き入ってしまいました。母親の感情だけで、子どもをおしつけたらどんなに子どもが苦しむのかを考えたら、おそろしくなりました。愛情をそそぐことが一番大切だということが分かりました。ありがとうございました。」

「身近な内容なのですごくおもしろく感じた。先生の昔話も興味をひくものだった。」

「教育学はすごく楽しかった。今日の桃太郎の話も、すごくよかった。今まで物語には別に意味というか、教えてもらうことなんてないと思ってたけど、とてもいいお話だったんだってわかった。もし、将来自分に子供ができたら、のびのび育てたいです。」

「自分のこれまでの教育環境や学習に対する態度、親についてなど、先生の話聞いて、ふりかえって

みると、いろいろ考えるところがあり、泣いてしまうことも数回ありました。教育学を受講してよかったと思っていますが、テストのことが不安です。年をとってから勉強することについての利点などをおねがいします。」

「この授業に出て、教育ということについて学びましたが、それを通して自分の中で『自分はどうなりたいか?』などいろいろ考えることができている気がします。本当にいい勉強ができています。」

「楽しく聞いているので、前期だけというのは、短いです。残念に思います。」

学生の自由記述にはまた、授業に対する意見や要望もあった。そのうちの10の自由記述をあげておきたい。

「教育の根本とか理念とかは先生のこれまでのお話のなかで沢山学ぶことができて、大満足です。実際に現在の教育現場で問題になっていること（学力低下とかゆとり教育とか学級崩壊とか）についても触れて欲しい。」

「今の時代は、教師が親から信頼されていなかったり、親が以上（ママ）なほど子供を加保護（ママ）にしている。それがどのような影響を与えたり、これからどのようにしていけばいいのかなども取り上げてほしいと思う。」

「先生自身の子育ての話を知りたい。中学生くらいの子供の気持ちや、それに対してどのように接するべきかを説明してほしい。」

「自分の子育ての時に役立つ知識など、実生活で役に立つようなことについてなどを取り上げてもらえると嬉しいです。」

「教育の仕方は人それぞれだが、『こんな風に育てたらよい』というアドバイスがほしい。本当は自分で考えなきゃいけないのかもしれないけど、子供ができたらかきっと悩むと思うから」

「将来、子供が生まれた時にとっても役立ちそうなので選択してよかった。今後、子供が不登校やいじめにあった場合の親の行動などを取り上げてほしい。」

「児童虐待に関して、もっと深く学びたい！」

「不登校や引きこもりなど、今の教育界について、もう少し学びたいです。資料や図書の紹介をもっと増やしてほしい。」

「私は教育に関する小説を読むのが好きなので、本をいろいろ紹介してほしいです。」

「今でも実行されていますが、こんな事件があったとか、本の内容とかをもっと教えてほしいです。」

Ⅲ 結 び

これまで調査結果を設問ごとに検討してきた。ここでは全体をとお試してみたい。

まず、問2から問14までの評定平均値を表aに示す。これは、たとえば、問2の「授業に対する教員の熱意・意欲を感じましたか」に対して、「十分感じた」を5、「ある程度感じた」を4、「どちらともいえない」を3、「あまり感じなかった」を2、「全く感じなかった」を1として、集計して平均した数値である。また、問2と3を熱意・意欲に、問4と5を授業内容に、問6, 7, 8を方法・技術に、問9, 10, 11を授業満足度に、問12と13を出席・遅刻に、問14と15を受講態度に、グルーピングした（問16はそのまま）。

表aをみてまず明らかなことは、施設・設備に対する数値が他と比べて非常に低いことである。評定平均値

が3以下なのは、施設・設備についてのみである。平均値が2.7というのはかなり深刻であり、自由記述欄にも施設・設備に対して不満を訴える学生の記述がかなりあった。この調査は6月下旬におこなわれたが、これが冬季であったならば新潟の気候から平均値はもっと低くなっていたと考えられる。施設・設備については、教員の力の及ばないことも多いが、学生の生の声をできるだけ行政に伝えていきたい。

次に、教員の授業についてみる。グルーピングした（授業に対する教員の）熱意・意欲、授業内容、方法・技術についていずれも評定平均値が4以上であり、これが授業満足度の4.41につながっていると考えられる。概ね学生は、教員の授業を評価し、また授業にも満足してくれていることがわかる。これは、自由記述欄の授業に対する学生の感想などからも読み取ることができる。熱意・意欲、授業内容、方法・技術のなかで数値が最も低いのは方法・技術である。これは、問7の板書による。板書は、評定平均値が3.67と他に比べてかなり低い。板書が他の調査項目に比べてこれほど低いとは、予想できなかった。板書については、自由記述欄に学生がいろいろな問題点を指摘してくれたので心して改善に努めたい。

出席・遅刻状況の平均値は4.82ときわめて高く、欠席したり遅刻したりする学生がほとんどいないことを表している。授業に対する学生の受講態度については、自分の受講態度より他人の受講態度を厳しくみる傾向があることは前にも指摘したが、両者をあわせた数値は4.00である。これは、教員の授業に対する熱意・意欲、授業内容、方法・技術、授業満足度のいずれよりも低い。学生は、教員の授業よりも自分たちの受講態度を厳しくみつめているのである。4.00という数値は客観的にみればかなり高い数値であるが、学生の授業評価は、学生が評価活動を通して自己の授業への取り組みを点検し、改善を図っていくという意義もある。

最後に、この調査に協力してくれた学生に感謝したい。当日授業に出席したほとんどすべての学生が全調査項目に回答してくれたばかりでなく、7割の学生が自由記述欄に授業に対する感想や意見・要望を書いた。そのなかには教員が授業を点検し改善していくために参考になるものも多くあった。本稿では紙面の関係もあり、学生の声をふまえたうえでの授業改善についてはほとんど言及することができなかった。稿をあらためて、述べてみたい。

表α 評定平均値

	熱意・意欲		授業内容		方法・技術			満足度			出席・遅刻		受講態度		施設
	熱意	準備	興味	わかりやすさ	教材	板書	話し方	効果	満足度	推薦	出席	遅刻	自分	他人	設備
2限	4.73	4.78	4.44	4.54	4.61	3.66	4.66	4.46	4.40	4.40	4.72	4.87	4.20	3.58	2.68
3限	4.83	4.88	4.50	4.55	4.65	3.70	4.78	4.30	4.40	4.43	4.75	5.00	4.25	4.23	2.75
全体	4.76	4.81	4.46	4.54	4.62	3.67	4.69	4.41	4.40	4.41	4.73	4.91	4.22	3.77	2.70
	4.79		4.50		4.33			4.41			4.82		4.40		2.70

— 注 —

- (1) 田中耕治「教育評価の理論と課題」（天野正輝編著『現代教育実践の探究』、1998、111頁）より重引、原典は、興水実「国語科における診断と評価の問題点」（『国語教育基本論文集成』第30巻、1993）
- (2) アメリカにおける教育測定運動から教育評価への移行については、中内敏夫・村越邦男「発達とその評価をめぐる教育理論」（岡本夏木他編『子どもの発達と教育3』、1979）、田中耕治「測定・評価論—アメ

リカの教育測定運動の特徴～ターマンの足跡を中心にして～(長尾十三二編『新教育運動の歴史的考察』、1988)、などを参照。

- (3) 大学審議会答申『グローバル化時代に求められる高等教育の在り方について』、2000、58頁。
- (4) 県立新潟女子短期大学短大教育研究会『短大教育』第1集、2001、25頁。
- (5) 特別受講生の一人である上村和子さんは、2001年11月17日の新潟日報の朝刊に次の投書をしている。

「先日、郵送されてきた一枚の修了証書を手に取り前期受講期間を振り返ってみました。若い学生に交じって学んだ教育学の講義は興味深く、説明の分かりやすさとトークの上手な教授に、学生は真剣なまなざしで耳を傾けていました。ほとんどの学生は保育士(ママ)として近い将来活躍してくれることでしょう。期待しています。

県立女子短大では一般を対象に特別受講生の枠を設けてくれているので、週一度通うことを楽しみにしていました。なかでも85歳を迎える高齢で元気な男性は、自転車と電車を乗り継ぎ、駅からは徒歩で欠席することなく通ってこられます。

背筋を伸ばす姿勢と、ユニークな語り口に風格と人生の重みさえ感じられる人です。『介護保険の世話にならないをモットー』にされているとか。元気でパワフルなこの人を見習い生涯学習し、より向上心を高めている姿を参考にしたいと思います。また、来春、再受講できる日を楽しみにしています。」

参考資料

授業評価アンケート調査

このアンケート調査は、教育学の授業を改善していくための基礎資料とするものです。授業を受けてあなたが感じたままの気持ちをお答えください。なお、回答の結果は統計的に処理し、個々の回答者を特定することはありませんので、ご協力をお願いします。

- 1 あなたが教育学の授業を選択した理由を1つだけ選んでください。
①内容がおもしろそうだから ②単位が取りやすそうだから ③就職に有利だから
④先輩に薦められたから ⑤先生に薦められたから ⑥その他 ()

- 2 授業に対する教員の熱意・意欲を感じましたか
①十分感じた ②ある程度感じた ③どちらともいえない ④あまり感じなかった
⑤全く感じなかった

- 3 授業に対する教員の準備（下調べ）はどうでしたか
①十分だった ②ある程度十分だった ③どちらともいえない ④あまり十分でなかった
⑤全く十分でなかった

- 4 授業内容はあなたの興味を引くものでしたか
①興味をひくものであった ②ある程度興味を引くものであった ③どちらともいえない
④あまり興味を引くものではなかった ⑤興味を引くものではなかった

- 5 授業内容はわかりやすいものでしたか
①わかりやすかった ②どちらかといえばわかりやすかった ③どちらともいえない
④どちらかといえばわかりにくかった ⑤わかりにくかった

- 6 プリント・視聴覚教材などは適切でしたか
①適切だった ②どちらかといえば適切だった ③どちらともいえない
④どちらかといえば適切ではなかった ⑤適切ではなかった

- 7 板書は適切で読み取りやすかったですか
①読み取りやすかった ②どちらかといえば読み取りやすかった ③どちらともいえない
④どちらかといえば読み取りにくかった ⑤読み取りにくかった

- 6 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかったですか
①聞き取りやすかった ②どちらかといえば聞き取りやすかった ③どちらともいえない
④どちらかといえば聞き取りにくかった ⑤聞き取りにくかった

- 7 この授業は、あなたの教育に対する知識や認識を向上させてくれましたか
 ① 向上させた ② ある程度向上させた ③ どちらともいえない
 ④ あまり向上させなかった ⑤ 向上させなかった
- 8 この授業全体に対するあなたの満足度はどうでしたか
 ① 十分満足できた ② ある程度満足できた ③ どちらともいえない
 ④ あまり満足できなかった ⑤ 全く満足できなかった
- 9 この授業を友だちにすすめたいと思いますか
 ① 薦めたいと思う ② どちらかといえば薦めたい ③ どちらともいえない
 ④ どちらかといえば薦めたくない ⑤ 薦めたくない
- 10 あなたのこの授業への出席状況は
 ① 100%出席 ② 90%程出席 ③ 80%程出席 ④ 70%程出席 ⑤ 60%以下出席
- 11 あなたのこの授業への遅刻状況は
 ① 遅刻なし ② 10%程遅刻 ③ 20%程遅刻 ④ 30%程遅刻 ⑤ 40%以上遅刻
- 12 あなたのこの授業に対する受講態度はどうでしたか
 ① 真面目に受講した ② ある程度真面目に受講した ③ どちらともいえない
 ④ あまり真面目でなかった ⑤ 真面目でなかった
- 13 あなたはこの授業に対する他の受講者の態度についてどう思いましたか
 ① 真面目だった ② ある程度真面目だった ③ どちらともいえない
 ④ あまり真面目でなかった ⑤ 真面目でなかった
- 14 校舎や教室の施設・設備はどうでしたか
 ① 良かった ② どちらかといえば良かった ③ どちらともいえない
 ④ どちらかといえば悪かった ⑤ 悪かった
- 15 特別受講生と一緒に学んでどうでしたか
 ① 良かった ② どちらかといえば良かった ③ どちらともいえない
 ④ どちらかといえば悪かった ⑤ 悪かった
- 16 この授業に対して意見や感想・要望（こんなテーマを授業で取り上げてほしいなど）があれば、自由に書いてください。

* 2限は問15なし（問16が問15となる）